

外来・救急対応委員会

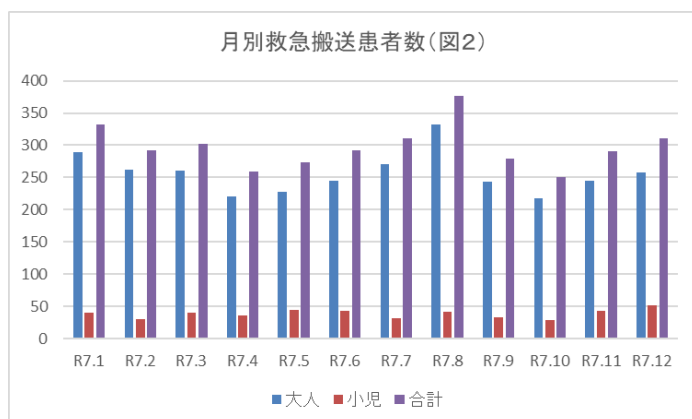
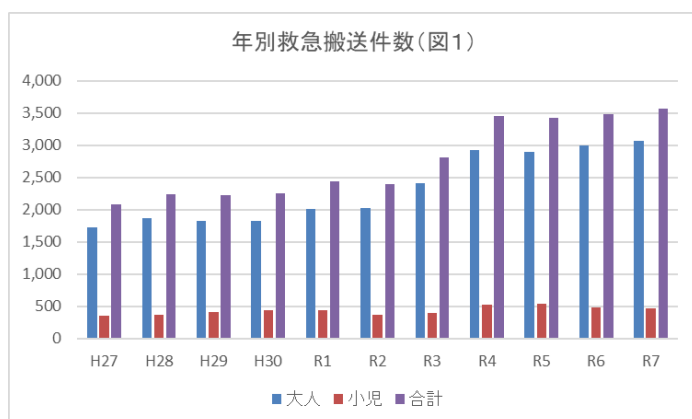
中津市民病院は大分県北部及び福岡県京築地区の唯一の中核病院であり、急性期医療の中心的役割を果たしてきました。

救急医療体制の整備・拡充が喫緊の課題のなか、当院では令和 6 年 4 月には救急科を開設しましたが、さらに令和 7 年 4 月に地域救命救急センターの指定を受けました。周辺機関と連携のもと、重症患者に対して高度かつ専門的な医療を 24 時間体制で提供する第三次救急医療機関として、これまでの北部医療圏における高度急性期病床不足を解消し、地域住民の安全を確保すること使命としています。

病床は 2 階北病棟 12 床と限られており、医師・看護師ほかの医療スタッフの人的資源も潤沢ではありませんが、皆で協力しながら、引き続き周囲の医療機関とも連携しての地域完結型の医療体制の確立を目指しています。

年別の救急車搬入台数の推移では、令和 4 年からはそれまでの 2000-2500 件/年から 3500 件/年程度へ増加しています。令和 7 年の救急搬送者数も 3,567 件と前年までと同水準で推移し、県内最多レベルの搬送数であり(図1)、当地域の医療体制における当院救急部門の担う役割の重要性を示しています。救命救急センターの運用により、さらに円滑な救急搬送患者への対応を行っています。

救急搬送患者の月別の内訳は季節性を反映しているものの前年と同様の推移であり(図2)、また月別の外来患者数についてもほぼ例年通りでした(図3)。



月別外来患者数(図3)

